

人文社会系図書館とOA

慶應義塾大学

理工学メディアセンター

松本和子

第2回SPARC Japanセミナー2013

人社系図書館の動向

- * 財政危機が図書館講読誌の電子化に拍車
- * 誌代の値上がり・包括契約・円安により人文・社会科学分野であっても購読維持が困難に
- * レファレンス件数、ILL件数の減少
- * 契約タイトルへのナビゲートが課題に
 - * Google Scholar で十分という声 vs Discovery tool
- * 書庫狭隘化対策に電子化されたタイトルが利用される

人文社会系の雑誌

- * STMに比べて1タイトルあたりの購読価格は低い
- * 専門、言語多岐にわたり、中小規模の出版社も多い
- * 権利関係処理が複雑（絵画、写真、楽譜、文書類）
- * バックナンバーの利用度が高い
- * 日本の学会誌： 学会費＝学会誌購読料
電子出版のノウハウの不足
- * 大学紀要： NIIが牽引した大学紀要の電子化と
機関リポジトリ（紙からの電子化）

人社系学術誌と研究者

* 2011年SCREAL 調査

- * 人社系研究者の嗜好:印刷体の利用を好む
和文学術雑誌の需要が高い
- * 外国雑誌:読まれているが、日本人のレフェリー少ない
ため?日本人の投稿少ない
- * 研究業績は最終的には単著の図書
- * 若手研究者の研究成果の発信は雑誌・紀要から
- * 国内学会・出版社・研究者はOAという言葉自体を知らない?理解していない?

OAへどう取り組むのか

- * 図書館としての取組
 - * 研究者へのOAの周知
 - * 図書館員自身の意識改革とコスト分析
リダイレクトするメリット、持続可能なモデルの検討
- * 大学としての取組
 - * 機関リポジトリへの登録
- * 国としての取組
 - * 著作権問題への取組 SCPJ
 - * 科研費等研究助成金に成果のOA化を